

地域内 循環

エネルギーと里地素材の循環

里地地域では、自然の素材がエネルギー源や生活・生業の資材として循環的に利用され、その活用形態が、里地景観を生み出してきました。里地における循環システムを見直し、新たな技術や価値観を加えることで、現代社会においても経済的に成り立つ地域資源の循環を作ることができます。

事例 滋賀県愛東町^{あいとうちょう}

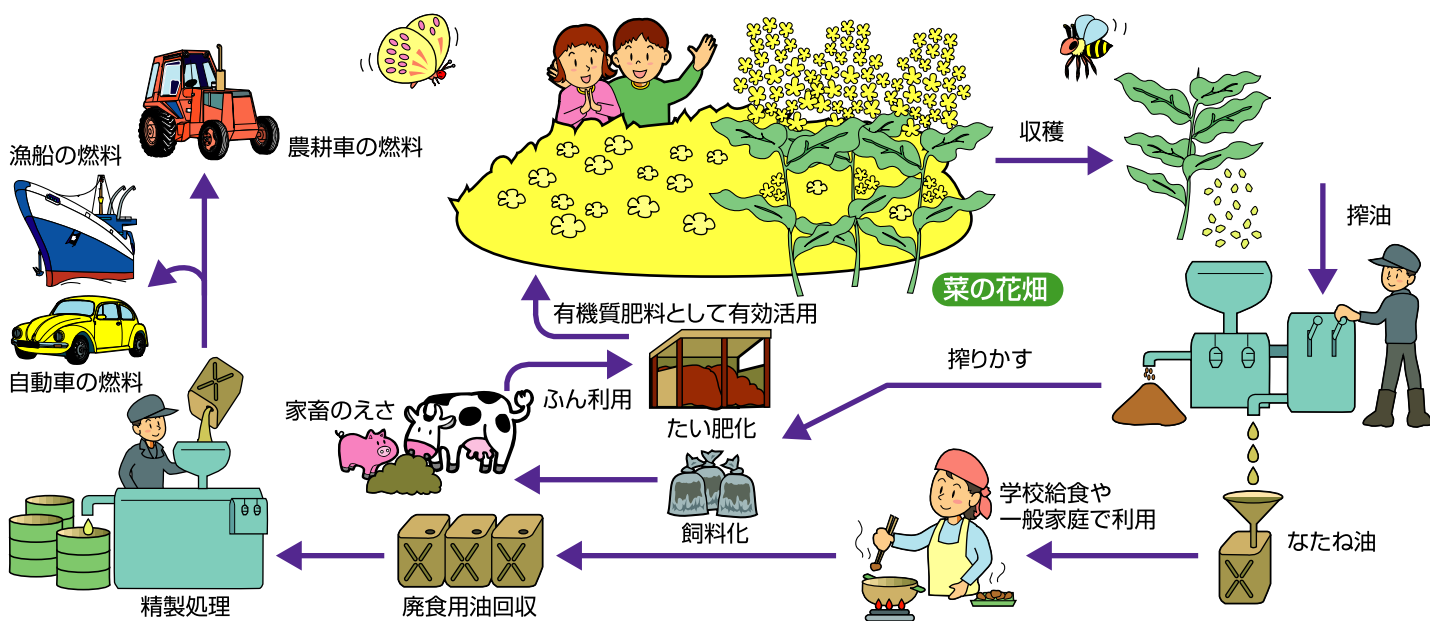
菜の花エコプロジェクト

休耕田に菜の花を植える取り組みが、滋賀県愛東町など琵琶湖周辺をはじめ全国に広がっています。菜の花から生まれる食用油は学校給食など地域で利用し、その廃食用油を、軽油代替燃料として活用することで、エネルギーと農業、環境問題、観光を考える取り組みです。

廃食用油の回収から始まった資源循環

毎月1回、家庭の資源ゴミを分別回収します。「廃食用油」もこの日に回収されます。廃食用油の一部は「粉石けん」に、他はバイオ・フューエル(軽油代替燃料)に精製し、町の公用車の燃料となります。この原料となる食用油を、休耕田で栽培した菜の花から絞った菜種油とすることで、地域内資源循環・エネルギー循環を実践しています。

湖国・菜の花エコ・プロジェクトの資源循環リサイクル

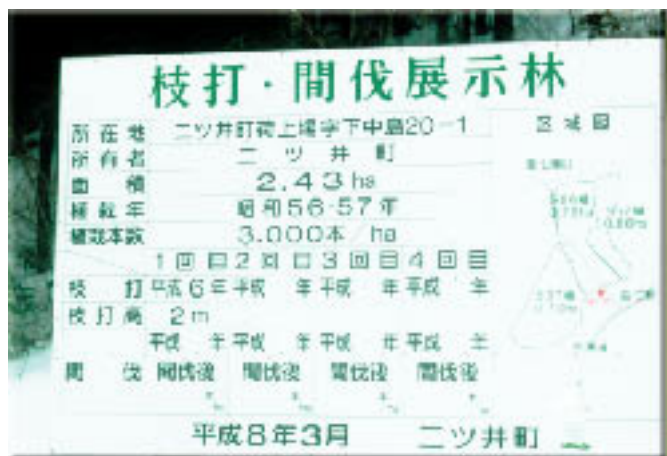


エネルギーの地域内循環をめざして

エネルギー循環を考えた取り組みは、農業振興、観光振興、小学校での体験学習、油かすの農業利用など、地域の中にあるバイオマスエネルギーに注目したさまざまな取り組みへと発展しています。

近くの山の木で家をつくる

秋田県二ツ井町にあるモクネット事業協同組合では、古民家の保存再生や、流域の材木で町営住宅や公共施設をつくる取り組みを広げています。その地域で育った木材資源を活用した風土にあった家づくりが、森林保全や里地環境の維持、景観の再生に寄与します。



二ツ井町周辺には、木の年代別の混交林や、枝打ち・間伐モデル林がある



ボランティアで森林整備・間伐をする都市生活者が増えている

世代を超えて引き継げる家づくり

流域の材を3年程度自然乾燥させることで、木の特性を活かした家づくりを行うことができます。床下に炭やゼオライト(二ツ井町などでとれる多孔質の石)などを敷く方法や内装に天然素材を用いることでアトピーアレルギー対策や環境負荷を軽減する取り組みも広がっています。



自然乾燥させた地元材で釘や金具を用いない伝統的な軸組み工法で建てる家

地域内循環

